もっといい船に乗せてくれ

山田　　実

昨年、「日本の青空」をみて、今年「母べえ」をみました。そしてつい最近、「多喜二の文学を語る集い」に参加しました。「こんな時代を、戦争する社会を、二度と許してはならない」ーこれがその時の率直な感想でした。自公政権が、アメリカの侵略戦争に全面加担して自衛隊の海外派兵に向け強引に突破しようとしている今、自分は社会人として、子供たちが安心して生きていけるように、「戦争許さじ！」と命をはってがんばっているといえるだろうか。「多喜二の集い」のトークの舞台で、「(蟹工船）は古くないです。全然古くないです、今の私たちとまったく同じ人たちー私の仲間たちが、続々とでてくるんですから！」とエッセーに書いた青年ユニオン女性労働者の「私たちをもっといい船にのせてくれ！」との我々大人たちへの訴えがいつまでも耳から離れません。